

m

MOA News

エムオーエー ニュース

No.275

特集

MOA美術館がリニューアルオープン

～新時代にふさわしい美術館として期待を集めスタート～



グラフ・MOA美術館

美術品が最も美しく映える空間に

「美しき家庭」は感謝から Vol.3

岡田先生の説く「感謝」～自然③～岡田茂吉の言葉より～

愛知県名古屋市 名古屋ポストン美術館「MOA美術館所蔵 吉田博木版画展」

予想を大きく超える約3万人が来場

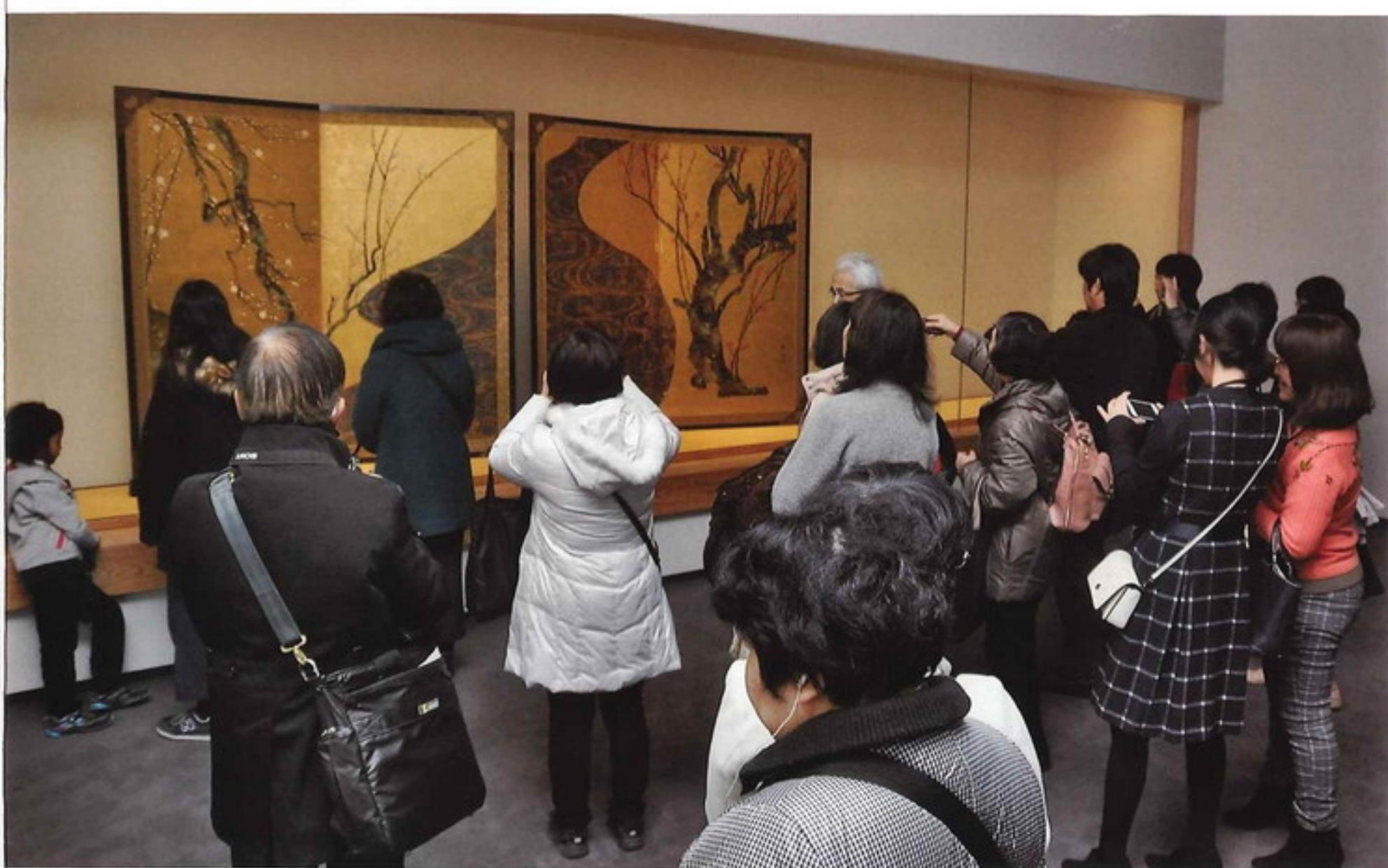
宮城県仙台市 第20回日本統合医療学会

岡田式健康法の効果に関する研究が関心集める



MOA美術館がリニューアルオープン

新時代にふさわしい美術館として期待を集めスタート



床の間をイメージしたケースに展示された国宝「紅白梅図屏風（びょうぶ）」は来館者の注目の的。
所蔵品は個人利用に限って撮影可能に。三脚やストロボの使用は禁止されている

「展示ケースのガラスが無いみたい。美術品に手が届きそうです」

「掛け軸や茶道具に和モダンの展示室がぴったり。美術品と展示室に一体感があり、集中して鑑賞できました」

約11カ月にわたる改修工事を終えてMOA美術館（静岡県熱海市）が2月5日、リニューアルオープンした。この日を待ちわびた多くの人が訪れ、明るく開放感あふれるメインロビーや美術品がより美しく映える新しい展示室で名品の数々を鑑賞しながら、感嘆の声をもらした。

創立者の願いによりかなう 美術館に生まれ変わる

MOA美術館は、創立者・岡田茂吉（1882～1955）の構想に基づいて、1982年にオープン。国宝3点、重要文化財66点をはじめとする約3500点の美術品を公開し、来館者に感動と美による癒やしのひとときを提供してきた。

オープンから30年以上がたち、展示室の刷新と設備の更新を図るため、昨年3月から改修工事に着手。現代美術作家・杉本博司氏と建築家・榎田倫之氏の新素材研究所が設計を手掛け、日本の伝統的な素材や技法を用いて、現代的な空間デザインの展示



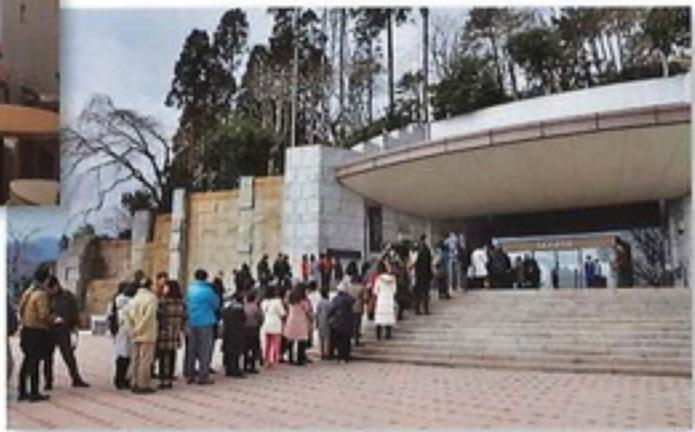
光の反射がなく、美術品がより間近に



ミュージアムショップでは伝統工芸作家の作品も販売されている



カフェレストランでちょっと一休み



入館を待つ人たち

室が誕生した。屋久杉や行者杉、紙で作られた畳を用いて床の間をイメージした展示ケース、向かい合うガラスが反射し合わないよう、間に設置された黒漆喰の壁など、美術品がより美しく映える展示空間が鑑賞する人たちの感動を呼んでいる。

さらに開放感あふれるメインロビーをはじめ、漆芸の重要無形文化財保持者（人間国宝）である室瀬和美（公財）岡田茂吉美術文化財団代表理事が手掛けた漆塗りの扉も、リニューアルの大きな目玉だ。従来から好評だったムアスクエア（ムア広場）からの相模灘の景観に加え、円形ホールいっぱいに映し出される万華鏡、光琳屋敷での着物の着付けといけ花や茶の湯の体験プログラム、ミュージアムショップでのショッピング、「カフェレストラン オー・ミラード」や「和食・甘味 花の茶屋」での食事など、館内は美の空間に憩う人たちの笑顔があふれ、連日にぎわいを見せている。

単なる美術品の展示・保存だけではなく「より美しく見せる」ことにより「美で多くの人を楽しませ、人間の品性を高めて平和愛好の思想が醸成される」との岡田茂吉の願いが一層反映され、地域社会の心身の健康づくりに貢献し、美術教育を推進しながら世界に日本文化を発信する、新しい時代にふさわしいMOA美術館となつた。



宮田文化庁長官は、東日本大震災後に仙台市で国宝「紅白梅図屏風」などを公開して被災した人たちを励ました功績をたたえ、今後の美術館活動に期待を寄せた



2月3日、能楽堂で行われた記者発表会。この後、大手新聞社、美術雑誌、地元メディアなどがリニューアルオープンを報道した



レセプションには各界から約400人の来賓が祝賀に訪れた

着任して間もないというイスラエル大使館のアリエ・ロゼン文化・科学技術担当は「美が人間の品性、靈性をも高め、平和思想を涵養する」という岡田茂吉先生の考えに共鳴しました。こうした自然景観と素晴らしい芸術を通して、心が高まらないはずがないと思います。私の国でも紛争などの問題がありますが、普遍的な言語といえる芸術を通じてこそ、相互に理解し、共生できる世界が実現できると思っていますし、それが私の仕事です。多くの人にMOA美術館のことを伝えていきたい」と称賛を寄せた。

翌3日は記者発表会の後、メインロビーでレセプションが行われ、宮田亮平文化庁長官をはじめ、博物館・美術館関係者や行政関係者、観光業界などから来賓約400

人新しくなった美の空間に、岡田茂吉の理念をたたえる来館者も多い。リニューアルオープンに先立つ2月2日にはラトビア共和国、サンマリノ共和国などの大使館関係者、昭和天皇の五女・島津貴子さんらを迎えて特別内覧会が催され、黄金の茶室では千宗守・武者小路千家第14世家元のお点前で抹茶を一服した。

岡田茂吉の理念に感動 美わしい世界の拡大を期待

2017.3.15
MOA NEWS No.275 4



2月2日、昭和天皇の五女・島津貴子さん夫妻も来館。黄金の茶室では、千宗守・武者小路千家第14世家元の点前で一服を堪能した



2月18日にはリニューアルオープン後の来館者が3万人を数え、3万人目となった神奈川県伊勢原市から訪れた夫妻に記念品が贈呈された



ラトビア共和国のノルマンス・ベンケ特命全権大使（左から2人目）ら各国の大天使館関係者が来館。国宝「色絵藤花文茶壺」をはじめ日本美術の名品の数々に目を見張った

人が参集した。室瀬和美代表理事、杉本博士新素材研究所代表、内田篤吳MOA美術館館長が挨拶。宮田長官、齊藤栄熱海市長の祝辞に続いて、千宗守家元の発声で乾杯した。

駆け付けた竹工芸の人間国宝・藤沼昇氏は「ただ美術品を展示するのではなく、見る人を喜ばせようと心を碎かれた思いも感じながら鑑賞しました。同じ美術品でも展示方法一つでこんなに印象が変わるものなのです。きっと訪れる人たちを大いに楽しませてくれることでしょう。これからも子どもたちへの工芸のワークショップなど、さまざまな形でMOA美術館と協力していくことを願っています」と語った。

また、全日本書写書道教育研究会理事長の長野竹軒東京学芸大学名誉教授は、漆塗りの持つ美しさと強靭さに着目し「100年先の将来を見据えていることが、あの扉に象徴されていると思いました。展示室も何か美の空間に包まれるような感覚を抱かれます。私も、MOA美術館の児童作品展を通じて子どもたちの情操教育に努力したい」と述べた。

美によって人間の品性を高め、地域社会に貢献し、日本文化を世界に発信するとの願いに共感する人々の期待を受けて、MOA美術館は新しいスタートを切った。

→3 美術品が最も美しく映える空間に



床の間をイメージしたケースに展示された国宝「紅白梅図屏風(ひょうぶ)」。框(かまち)に樹齢数百年の行者杉を用い、床の畳には美術品保存により適した素材としてイ草ではなく紙を使用

展示室2

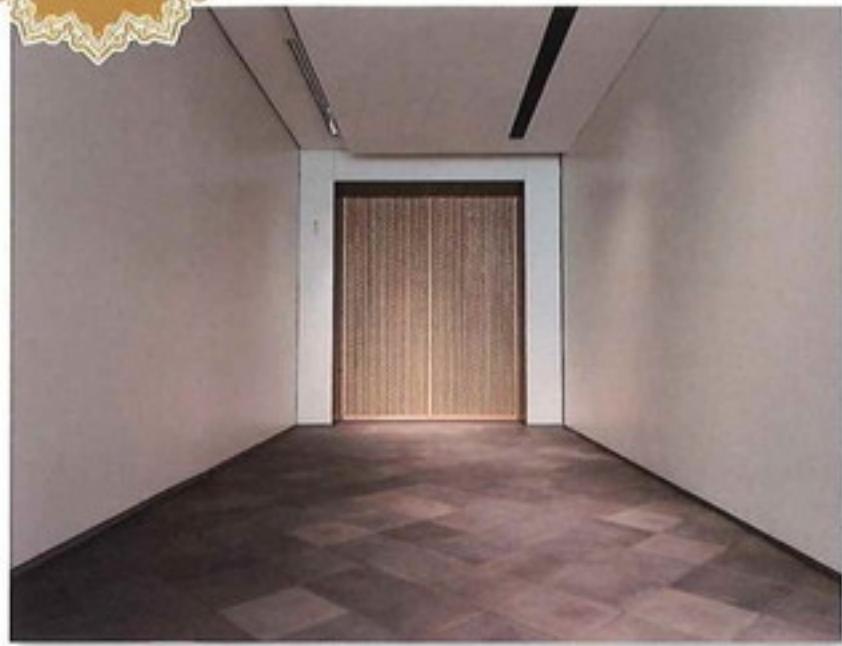
国宝「紅白
梅図屏風」



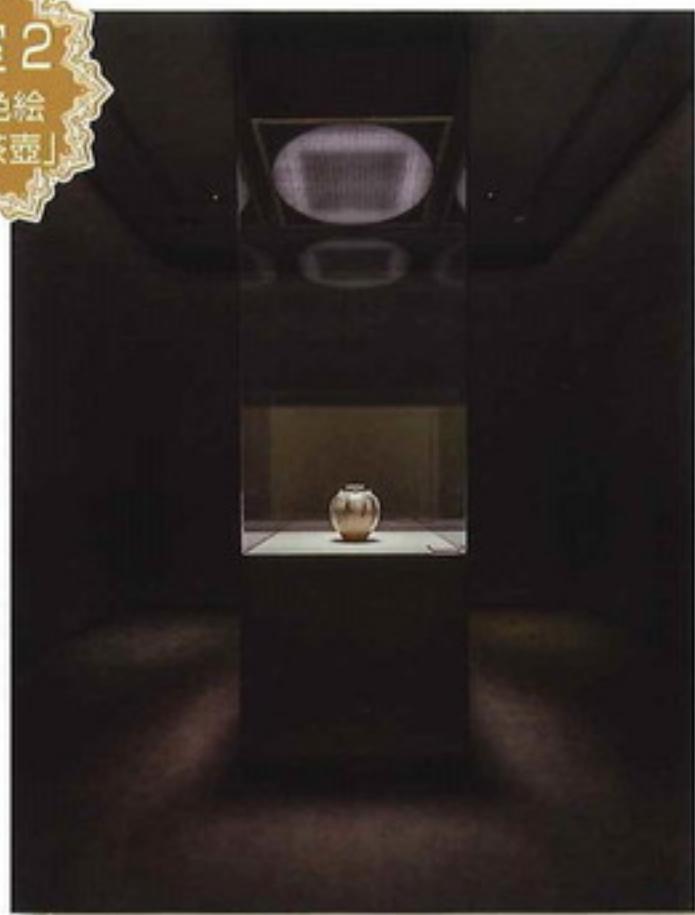
展示室1

黒漆喰(しっくい)の壁が展示ケースのガラスへの光の映り込みを防いでいる。ガラスが無いようにも感じられ、美術品が鑑賞しやすくなっている。実際にガラスがない展示ケースもある

※「紅白梅図屏風」は、例年2～3月の約1カ月間展示される



メインロビーに接する展示室への入り口。和のイメージでデザインされた石畳と格子戸(自動開閉)が、来館者を美の空間へといざなう



黒漆喰で囲まれた特別室に浮かび上がる国宝「色絵藤花文茶壺」。足利義政が慈照寺「東求堂」で見た光、千利休が茶室「待庵」で見た自然の柔らかい光を追求し、先端光学技術が駆使されている



エントランス

高さ4mを超える漆塗りの扉。杉本博司氏のコンセプトに基づき、人間国宝・室瀬和美氏が手掛けた。赤と黒に塗り分けられた扉は桃山時代に流行した根来(ねごろ)塗の意匠「片身替わり」をイメージ



メインロビー

相模灘を一望できるメインロビー。開放感あふれる空間は、展示室へ向かうプロローグとなる



樹齢1,500年を超える屋久杉の展示台が、名品の美を引き立たせる。他の展示室も含めて、展示台は新たに開発された免震構造になっている



円形
ホール

円形ホールに映し出された万華鏡。世界的な万華鏡作家、依田満・百合子夫妻によるもので、万華鏡としては日本最大の大きさとなる

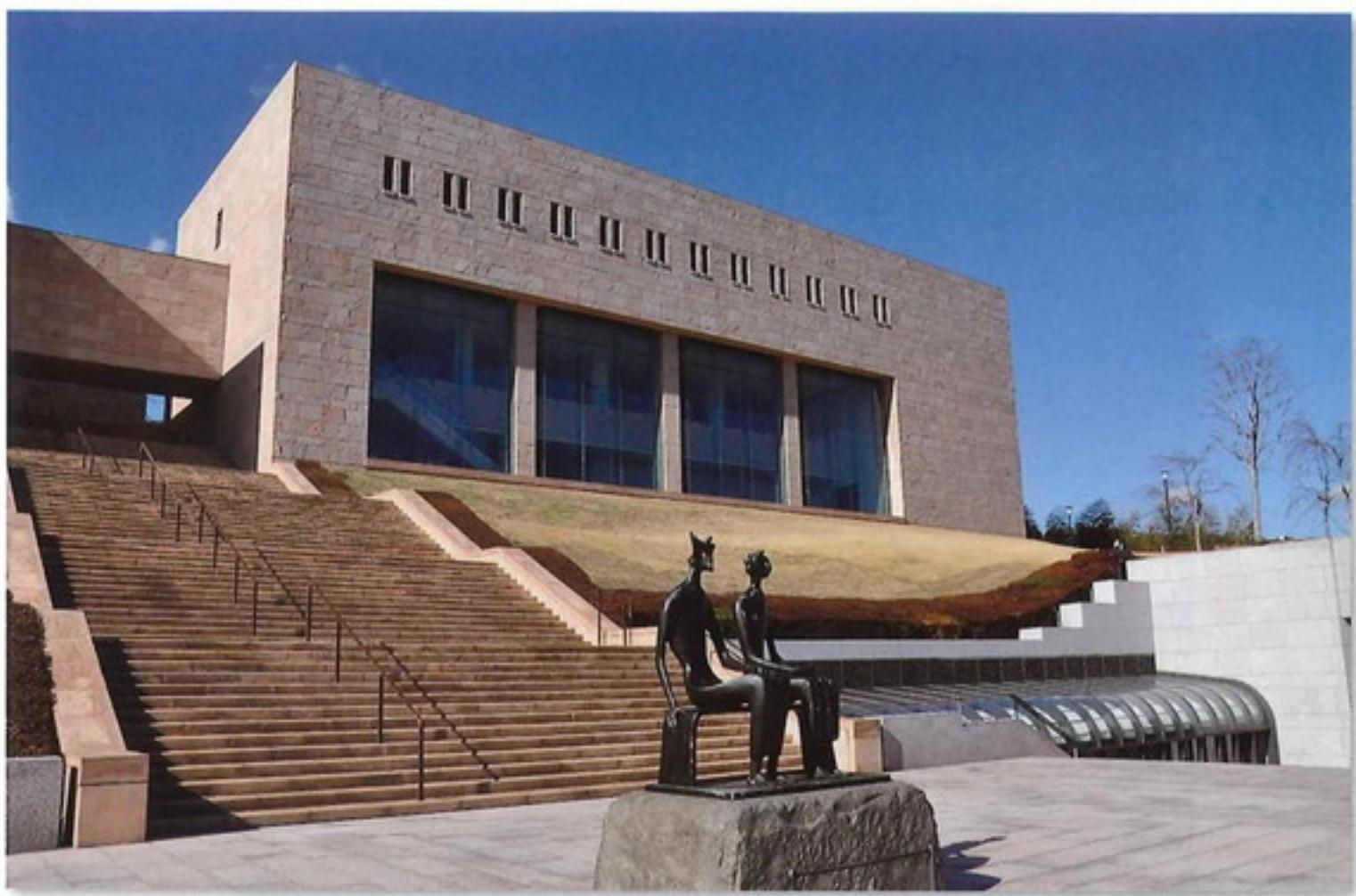


美を楽しむ生活の広がりと工芸家の支援を願い、人間国宝や岡田茂吉賞受賞など伝統工芸作家の作品も販売



道 路

リニューアルに併せて、エスカレーター側の入り口に向かう道路も改修された。ウメ、ツツジ、サクラなどの季節の花々を楽しみながらMOA美術館へと向かうことができる



MOA美術館 利用とアクセス

開館時間：9:30～16:30（入館は16:00まで）

休館日：木曜日（祝日は開館）、展示替え日、年末年始

交通：JR熱海駅下車／バス8番のりばMOA美術館行きで7分、タクシーで5分

観覧料：大人1,600円／高校生・大学生1,000円（要学生証）／中学生以下無料／満65歳以上1,400円（要身分証明）／団体料金1,300円（10人以上）

静岡県熱海市桃山町26の2 電話0557(84)2511

MOA美術館

検索



MOA美術館 2017年の展覧会

■奇想の絵師 岩佐又兵衛

中山常盤物語絵巻 義経伝説全12巻一挙公開

3月17日（金）～4月25日（火）

■琳派の美と光琳茶会の軌跡

4月28日（金）～6月6日（火）

■美人画の系譜 江戸から近代まで

春章・歌麿・深水・松園を中心

6月9日（金）～7月18日（火）

■夏休みコレクション展 北斎「富嶽三十六景」

7月21日（金）～8月29日（火）

■第20回MOA岡田茂吉賞展

9月1日（金）～10月24日（火）

■武者小路千家・千宗屋キュレーション 茶の湯の美

10月27日（金）～12月10日（日）

■暮らしの中の伝統工芸

12月16日（土）～1月23日（火）

※展覧会名称は変更になる場合があります。

岡田先生の説く「感謝」—自然③

～岡田茂吉の言葉より～

地上に天国を作る、その天国ってのは、
真、善、美の世界です。

その美っていうのは一体何ですか？
綺麗な家に住み、美しい着物を纏いまとい
おいしい物を食べるっていうのは
美じゃないですか。

仏様に花を上げるっていうのもそれなんです。
花は靈界に非常にいい影響を与えるんですよ。
私の所ではどの場所でも大抵花をおいてあり、
花のない部屋はないくらいです。



大仁瑞泉郷 古民家・宝山亭とチューリップ

名古屋ボストン美術館「MOA美術館所蔵 吉田博木版画展」

予想を大きく超える約3万人が来場



多くの来館者が吉田博の木版画作品を鑑賞に訪れた



多色摺で朝夕や霧を表現した「帆船」
が並べられた



緻密な線や色彩の表現に見入る



吉田司氏の講演を多くの市民が聴講



前日にはセレモニーと内覧会を開催



名古屋ボストン美術館の外観

主催／名古屋ボストン美術館、共催／中日新聞社、後援／愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所、協賛／中京テレビ放送、特別協力／MOA美術館、協力／ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、エスカ、中部国際空港、ユニモール

1月14日から2月26日まで、愛知県の名古屋ボストン美術館で「MOA美術館所蔵 吉田博木版画展—抒情の風景（ノスタルジック・ユートピア）」が開催された。当初の想定を大きく超える約3万人が来場した。

序章「吉田博の木版画」をはじめ「旅する画家」「山の画家」「水の画家」「旅する画家、再び」「抒情の風景」のテーマごとに、ライフワークでもある山を描いた「富士拾景 朝日」「日本アルプス十二題の内 穂高山」、海外を旅して写生した「グランドキャニオン」「タジマハルの朝霧 第五」、同じ版木で色を変え、朝、昼、夕、霧など時間や気候の変化を表現した「瀬戸内海集 帆船」6点、イギリスのダイアナ元皇太子妃が執務室に飾ったものと同じ「瀬戸内海集 光る海」「猿澤池」など86点が展示された。

写実的な描写や、作品によって90回を超える多色摺の色彩表現などに感嘆する人などから「摺りを重ねて表現された、版画とは思えない色使いに驚きました」「山に当たる光や川の激しい流れなど、自然の描写がすてきで、見ているとすがすがしい気分になります」などの声が聞かれた。MOA美術館の紹介コーナーも設けられ「孫が参加した児童作品展で名前だけは知っていました。今回、素晴らしいコレクションを拝見し、有名な『紅白梅図屏風』を所蔵していることを初めて知りました。ぜひ行ってみたい」と関心を寄せる人も。

前日には美術ファンや地元の識者ら約160人が参加し、オープニングセレモニーと内覧会が開催され、内田篤呂MOA美術館館長が挨拶した。初日には隣接する名古屋都市センターで、吉田博の孫で版画家の吉田司氏が講演し、200人近い聴衆に吉田博の人となりと木版画の技法を紹介した。

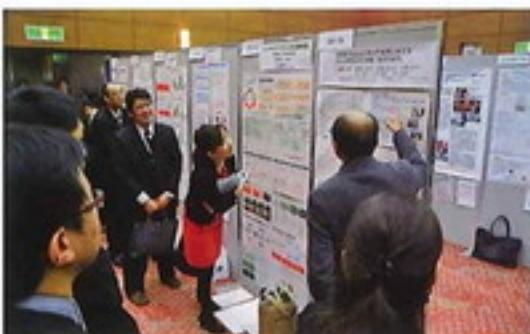
アメリカのボストン美術館は、1900年に展覧会を行うなど吉田博との縁が深いこともあり、姉妹館である名古屋ボストン美術館が企画。依頼に応えてMOA美術館が所蔵美術品を出展した。

第20回日本統合医療学会 岡田式健康法の効果に関する研究が関心集める

主催／第20回日本統合医療学会組織委員会



片村院長による浄化療法の研究に参加者が注目



参加者の質問に答える森岡院長



過疎地での地域ケアの成果を発表する柴医師



黒澤看護師の発表を多数の看護関係者が聴講



地域包括ケアについて坂本支部長が発表



仁田新一同学会理事長の講演も行われた

第20回日本統合医療学会が、宮城県仙台市の東北大学医学部星陵キャンパスで開催。「統合医療に科学の光を日本から」をテーマに、昨年12月23日から25日にかけて、統合医療に関するシンポジウム、講演、研究発表が行われた。

一般演題として、片村宏（医財）MOA新高輪クリニック院長ら、（一社）MOAインターナショナルと連携するクリニック・療院の医師、看護師が、それぞれ岡田式健康法の効果、統合医療チームのキュア（治療）とケアが有効だった例、統合医療施設「療院」での看護師の役割などについて発表。多くの参加者が発表に耳を傾け、岡田式健康法や療院の詳細、ボランティアとして療院での健康づくりを支えるMOA健康生活ネットワークについても質問が寄せられ、関心の高さをうかがわせた。

2日目のシンポジウム「持続可能な地域包括ケアシステムの構築と統合医療・社会モデル」では、講師の一人として元鳥取県南部町長の坂本昭文日本統合医療学会山陰支部長が発表。「まちづくりと統合医療」と題して、エネルギー療法（岡田式浄化療法）の健康教室など、同町での統合医療を取り入れた地域包括ケアの取り組みについて伝えた。

研究発表

脂質異常症およびその予備軍に対する岡田式健康法の効果に関する研究

（医財）玉川会金沢クリニック院長 森岡尚夫

限界集落において統合医療チームのキュアとケアのサポートが有効であった例

MOAかがわ健康増進センター医師 柴 維彦

肩部の皮膚伝導性と筋硬度への岡田式浄化療法の効果

（医財）玉川会MOA新高輪クリニック院長 片村宏

統合医療施設「療院」における看護師の役割

（医財）玉川会金沢クリニック看護師 黒澤由貴子

病院で「MOA旭東美術文化展」

花や児童の作品が患者や医療スタッフを楽しませる



児童作品展の力作が患者の癒やしに



紅白梅図屏風（レプリカ）を楽しむワークショップも

サークル花の体験コーナーが好評

1月5日から31日まで、岡山市の岡山旭東病院で「MOA旭東美術文化展」が開催され、花や児童の作品が患者や医療スタッフを楽しませた。

期間中、MOA美術館児童作品展に出品された地域の小学生の絵画43点が飾られた他、サークル花コーナーが設けられ、患者やその家族、看護師らが体験し、花を児童の作品と共に飾るなどして同病院を訪れる人たちの目を楽しませた。1月20日には、院内施設でギャラリートーク＆ワークショップが行われ、土井章弘院長や入院患者ら10人が参加。手作り花器に花をいけて楽しみ、国宝「紅白梅図屏風」「色絵藤花文茶壺」（共にレプリカ）を鑑賞した。

お互いのいけ花を見て笑顔で語らう人たちや「美しい美術品も鑑賞できて、すてきな企画に心が癒やされました」と喜ぶ人もあった。土井院長は「今後も継続したい」とMOAの活動に期待を寄せた。

2017.3.15 MOA NEWS No.275

「そのままパネル」のご案内



「MOAニュース」の紙面は、「そのままパネル」として広くご活用いただけます。健康増進セミナーや食セミナー、料理教室やフラワーセミナーなど、MOAの願いや活動を伝えていく上で、ぜひご利用ください。

1600

- MOAの願いや活動の紹介に
- いけ花展、児童作品展の会場に
- 行政、他団体主催のイベントに
- 健康増進セミナーでのMOA紹介に

半切

345×415
(1) 3,085円
(2) 4,628円

大全紙

500×600
(1) 5,657円
(2) 7,714円

全倍

600×900
(1) 9,771円
(2) 13,371円

A-1

595×841
(1) 9,771円
(2) 13,371円

B-2

515×728
(1) 8,228円
(2) 11,314円

A-2

420×594
(1) 5,657円
(2) 7,714円

※価格は消費税込みで表示しています。

※送料は着払いにて、実費を負担いただきます。

※サイズはmm。価格の(1)はマット紙プリントのみ、
(2)はパネル仕上げ。

※屋内での短期（1～3ヶ月）の使用向きです。

お申し込み、お問い合わせ先

株MOA商事出版部 営業課（担当・伊藤）

〒413-0011 静岡県熱海市田原本町9の1 热海第一ビル6階
電話 0557 (84) 2641 FAX 0557 (84) 2691

(一社) MOAインターナショナルは、心身の健康増進、情操豊かな暮らしと文化の発展を願い、健康・教育・文化・環境を中心とした運動を、国内外において展開しています。

具体的には、岡田式健康法（浄化療法、食事法、美術文化法）をはじめ、統合医療、食育・地産地消、美育・美術文化活動を中心に、心ある個人や団体と共に、心身ともに健康な人づくり、まちづくりを進めています。

MOAインターナショナルでは、本会の趣旨にご賛同いただき、運動を支援、または運動にご参加くださる方々を広く募集しています。

登録方法

所定の登録申込書に必要事項を記入し、登録料として1万円、年会費6,000円（家族会員2,000円）を添えてお申し込みください。

会員の特典

- ・機関誌紙（『MOAニュース』『楽園』）のお届け
- ・グループ企業、財団などが行う各種割引、特典のご案内
- ・提携・関連医療機関（病院・クリニックなど）のご紹介
- ・岡田式浄化療法の施術資格
- ・ボランティアメニューのご案内
- ・各種イベント、セミナー、講座、講習会および諸行事のご案内

お問い合わせ

最寄りのMOA窓口まで、お願ひ致します。

●詳細はウェブサイトでもご覧いただけます。

[MOAインターナショナル](#)

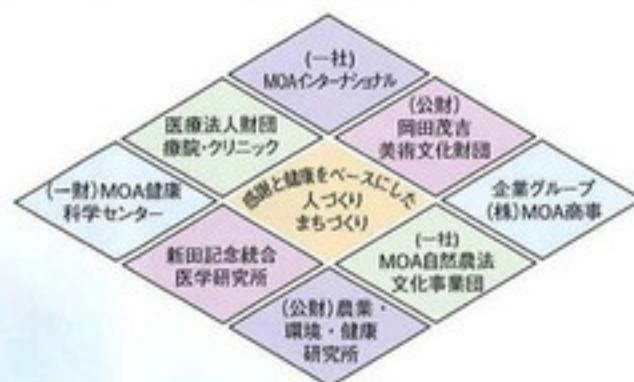
検索

岡田式健康法資格取得講座のご案内

MOAインターナショナルでは、岡田式健康法の資格制度を設けています。

詳しくは、最寄りのMOA窓口までお問い合わせください。

連携・協同する MOAインターナショナル



一般社団法人MOAインターナショナルは、医療法人財団（玉川会・光輪会・瑞泉会・愛和会）や公益財団法人（岡田茂吉美術文化財団、農業・環境・健康研究所）、一般社団法人（MOA自然農法文化事業団）、一般財団法人（MOA健康科学センター）、株式会社（MOA商事、MOAインターナショナルなど）と協同体制を構築し、総合力をもって、感謝と健康をベースにした人・家庭・まちづくりの推進・拡大に向かっています。



健康増進セミナーでの岡田式浄化療法（静岡）



美術文化法の花による癒やし（熊本）



食事を楽しみつつ食セミナーに学ぶ（大阪）

日本人とお米④

米騒動って？

米を伝統的に最も重要な農産物としてきた日本では度々、凶作や米価格の暴騰などに民衆が暴動を起しそう米騒動が起つてきました。

「享保の大飢饉」の際など江戸時代にはしばしば発生し、明治維新後には全国規模のものが3回、第一次世界大戦中には、シベリア出兵などで政府が米を買い入れ、商人の買い占めや売り惜しみで、米価が戦前の4倍になり、史上最大規模の暴動に発展したそうです。米が主食だからこそでしょう。

最近では、一のの3(平成5)年、記録的冷夏によつて米の生育不良が生じ、小売店からお米が消えるなど、市場が大きく混乱しました。平成の米騒動とも呼ばれています。この時

の全国の作況指数(平年を100とする)は「著しい不良」を示す90を大きく下回る74。東北は特にひどく、岩手で30、青森では28でした。

そんな中で、ひとり泣きわざされたのがMOA自然農法です。青森のある地区では作況指数13.2と、良い人で反収2.3俵でしたが、自然農法実施者は平均7俵半の収穫でした。自然農法の真価が發揮された出来事でしよう。

地球規模で天候不順が問題になっている今、いつでも手に入ると思っていたり米が、そうではなくなる口がくるかもしません。当たり前のようにご飯を食べられる毎口に、感謝の思いを新たにしたいものです。

(株) MOA商事では、MOA自然農法産などの健康的なお米をご提供しています。

お問合せ・お申し込みは「MOAつうはん」まで

TEL: 0120(555)872 平日9:30~17:00
(通話料無料)

FAX: 0557(84)2645 24時間受付

- ・受付時間外は、留守番電話にメッセージをお願い致します。
- ・留守番電話、FAXどちらも翌営業日に担当からご連絡致します。

〒413-0011 静岡県熱海市田原本町9の1 热海第一ビル7階

(株) MOA商事 MOAつうはん

